

## 無病息災を願って 各地でさいの神行事



近年、子供会を中心として、各地で小正月の行事である「さいの神」が行われています。  
このさいの神は、疫神や悪霊を防いだり、追い払ったりする神で白い雪が舞いちらる夕空に赤い炎と煙が立ちこめ、迎り一面は、パーン、パーンと生竹の音が勢いよく

子供たちもスルメを持って元気いっぱい(早通)



手も凍る寒さの中、点火は慎重に(尾山)



こだまします。  
十五日、市内では、二十か所ちかくで、この行事が繰り広げられましたが、六十年ぶりに復活した尾山地区と新興住宅地の早通地区を追ってみました。



テレビ局も取材に(尾山)

子供会育成会の人からとば編みを習う児童たち(早通)



### 機械の協同利用や 農業後継者の定着化を

#### 地域農政推進協力の検討会が

一月三十一日、中央公民館で開かれました。

この検討会は、農協役員などの学識経験者、生産組織代表、中核的農家代表、農業後継者代表、農業委員から構成される地域農政推進協力員の会議で、当日は約五十人が出席しました。

会議では、豊島辰夫さん(樋ノ入)、山崎勝さん(高森)、金子益夫さん(松影)の三人から推進活動の事例発表がありました。

事例発表では、農地の他地区への流動化問題、農業者の高齢化対策の必要性、農業機械の共同利用の推進など地域における農政活動の現状や課題が述べられました。

その後、新潟大学農学部助教授伊藤忠雄さんから「新潟県における本市農業の位置付けと振興策について」と題し、約一時間半の講演がありました。

検討会は、稲作単作地帯における転作の対応策等活発な討議の中で終了しました。



吹雪が1休みした日曜日、自治会関係者らがお宮の雪下ろし作業に汗を流す(2月12日、上大月で)



吹きだまりに突っ込んだ車を救出する除雪隊(2月6日、午後7時、芋黒地内で)



自治会役員と民生委員が、老人のひとり暮らし世帯や母子世帯の雪下ろしを行う(2月7日、高森新田で)



日曜日の早朝から、小・中学生の通学路(約1,500m)を除雪する高森自治会の保護者。(2月12日)

# 積雪は最高一四九センチ

## 雪害対策本部を設置

県から市へ入って来る気象情報は、連日のように「大雪警報」か「大雪注意報」の発令。  
市では、二月六日ついに雪害対策本部を設置しました。現在六十台の除雪車を稼働し、早朝から道路の除雪に取り組んでいます。  
市民のみなさんも「雪はもうたくさん」「雪にはうんざり」といったところでしょうが、雪との闘いもあとわずかです。お互いに協力し合って頑張りましょう。

本部で二月八日までにまとめた  
主な状況は次のとおりです。

○最高積雪 一・四九センチ (二月七日)

○最低気温 氷点下七度 (二月四日)

○市の除雪経費 約三千四百万円

○雪下ろし中の転落事故等 二人

○ビニールハウスの倒壊 五棟

○その他水道管破裂 多数

○国鉄白新線の客車運休 四十五本

○車のスリップ事故等 約七十件